

# 日本図書館情報学会

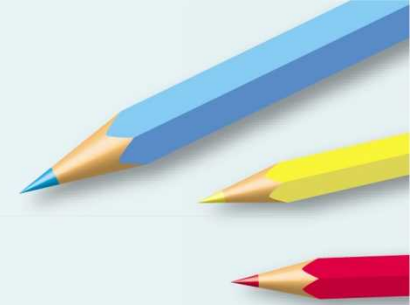
小田 光宏(おだ みつひろ)

(日本図書館情報学会会長・青山学院大学教授)

倉田 敬子(くらた けいこ)

(日本図書館情報学会副会長・慶應義塾大学教授)

## 学校図書館研究の展開



- 『日本図書館情報学会誌』掲載論文(2010～2015)
  - ルーブリックによる自己評価の分析を通じた探究学習の支援のあり方
  - 1950年代前期の沖縄における学校図書館改革の受容
  - 市教育委員会における小・中学校図書館の整備推進の要因
  - 教員の読書指導への意識や実態を踏まえた学校図書館の支援のあり方
  - 戦後初期(1952-1963)の日本における学校図書館法の成立過程
  - アメリカ公立学校カリキュラム改革における学校図書館
  - 1930年代のアメリカ南部における学校図書館専門職養成制度
  - 読書教育に対する学校図書館および司書教諭の役割
- 研究助成(2014～2015)
  - 教科における調べ学習の過程で必要とされる知識・技能とその指導:教科教員と学校図書館員の役割分担に着目して
  - 学校図書館による教員サポートを促す図書推薦システムの開発と評価

# 学校図書館の運営に係る基本的な視点について

## 学校図書館研究の展開

### • 研究大会・研究集会発表

#### – 2015

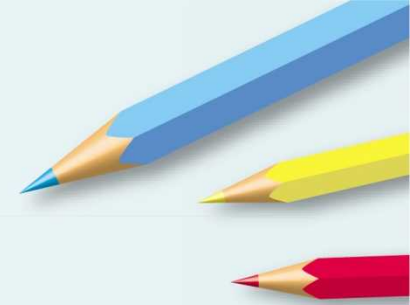
- 学校図書館における保護者による読書活動の支援
- 学校図書館における中学校美術科の鑑賞学習への支援に関する調査
- 学校図書館における貸出記録管理の現状および教員・図書館担当者・図書委員の意識
- 教科・単元に関連した図書を自動収集する試み

#### – 2014

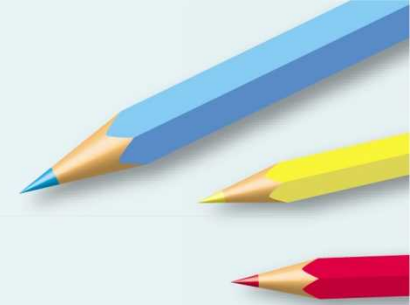
- デジタル時代に対応する学校図書館のあり方を問う
- 中学校美術科の鑑賞学習における図書館の利用に関する調査
- 学習支援における学校図書館専門職員と教員との連携・役割・職務関係の分析を基に
- 学校図書館支援センター推進事業の成果と課題
- 学習支援に関する司書教諭と学校司書の職務の現状と役割意識
- Kuhlthauらの"Guided Inquiry"の枠組みを援用した中学3年生の探究学習の分析
- 読書による能動的な読み手の育成:クリティカル・リーディングの可能性
- 『現代読書指導事典』の内容分析
- 「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の変遷と課題
- 長野県高等学校における学校司書制度
- 学校図書館における有効な利用法と支援
- 小学校図書館の評価と利用者の満足度
- 探究学習の過程で活用される知識・技能と学校図書館利用指導のあり方に関する検討
- 戦後沖縄の教育改革における学校図書館:
- 占領期前後における城戸幡太郎の学校図書館に対する関与
- 読書を触発するキュレーションサービスの構築

#### – 2013

- 高校教員の読書経験が生徒への読書指導に与える影響
- 高校の学校司書がもつ教科に関する学問の知識
- 学校図書館コレクション形成に関する2000年以降の議論の概観
- 韓国における学校図書館の協力型読書プログラムの開発
- 韓国における司書教諭の任用制度の特徴及び現況
- 高等学校図書館担当者の職務意識の特徴
- 1950年から2000年にかけての公立高校学校司書の図書館実践
- カリキュラム開発における学校図書館の位置づけの在り方
- 探究型学習における児童生徒の学習過程及び学習到達度の可視化へ向けたルーブリックの作成と検証



## 学校図書館研究に見られる揺らぎ



- 知見を普遍化(一般化)させることの難しさ
  - 校種の違いに基づく相違
  - 学校の置かれる地域の違いに基づく相違
  - 学校の環境(経営方針, 組織, 教職員, 施設ほか)の違いに基づく相違
- 研究に向かう姿勢の揺らぎ
  - 「学校図書館活動<図書館活動」を前提にしたアプローチ
  - 「学校図書館活動<学校教育活動」を前提にしたアプローチ
- 発展途上にある学際的志向
  - 図書館情報学と教育学諸領域の協同の可能性
    - 教育心理学: 発達段階と読書...
    - 教育社会学: 学校図書館と貧困...
    - 教育方法論: 学校図書館とディスレクシア...

## 「学校図書館基準」の策定

- 「学校図書館基準」の意義

- 運営に関する視点を明確かつ向上させるためのツール
- 教育行政による学校図書館活動の支援ならびに環境醸成

### 「学校図書館基準」とは

学校図書館の発展と充実のため、その設置、運営に関して必要とされる原則、サービス、資料、職員、施設などについて具体的な項目を文書化したもので、図書館のあるべき姿を示す規定と数値目標からなる。

日本で公表された「学校図書館基準」はいくつかあげられるが、最も代表的なものとなる現行の基準は、文部省が1959年(昭和34)年に編集した「学校図書館運営の手引き」に収録され、以後学校図書館の基本的なあり方と到達目標を示した指針として広く活用されているが、法的拘束力は持たない。

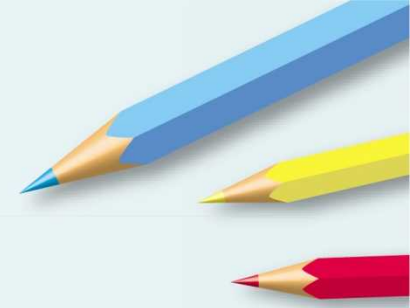
蔵書の数量に関して「学校図書館図書標準」(文部科学省, 1993)や「学校図書館メディア基準」(全国学校図書館協議会, 2000)がある。

[日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』第4版, 丸善, 2013より]

## グローバル標準の指向

- 米国学校図書館員協会 (AASL: American Association of School Librarians) による近年の基準・ガイドライン策定例
  - Learning Standards
    - Standards for the 21st-Century Learner (2007)
    - Standards for the 21st-Century Learner In Action (indicators, benchmarks, model examples and assessments) (2009)
  - Program Guidelines
    - Empowering Learners: Guidelines for School Library Programs (2009)
    - A Planning Guide for Empowering Learners with School Library Program Assessment Rubric (2011)

## LIPER提言



- LIPER概要

- 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究 [Library and Information Professions and Education Renewal] (平成15年度～平成17年度: 科学研究費補助金による研究, 代表・上田修一・慶應義塾大学教授 (当時))
- その後, LIPER2, LIPER3として, 平成26年度まで展開

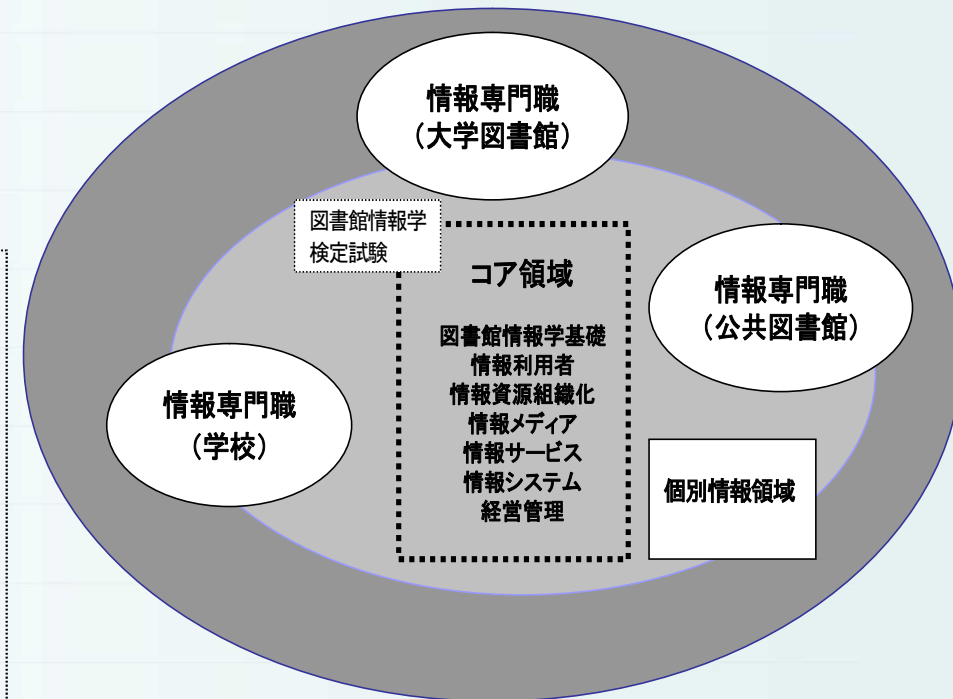
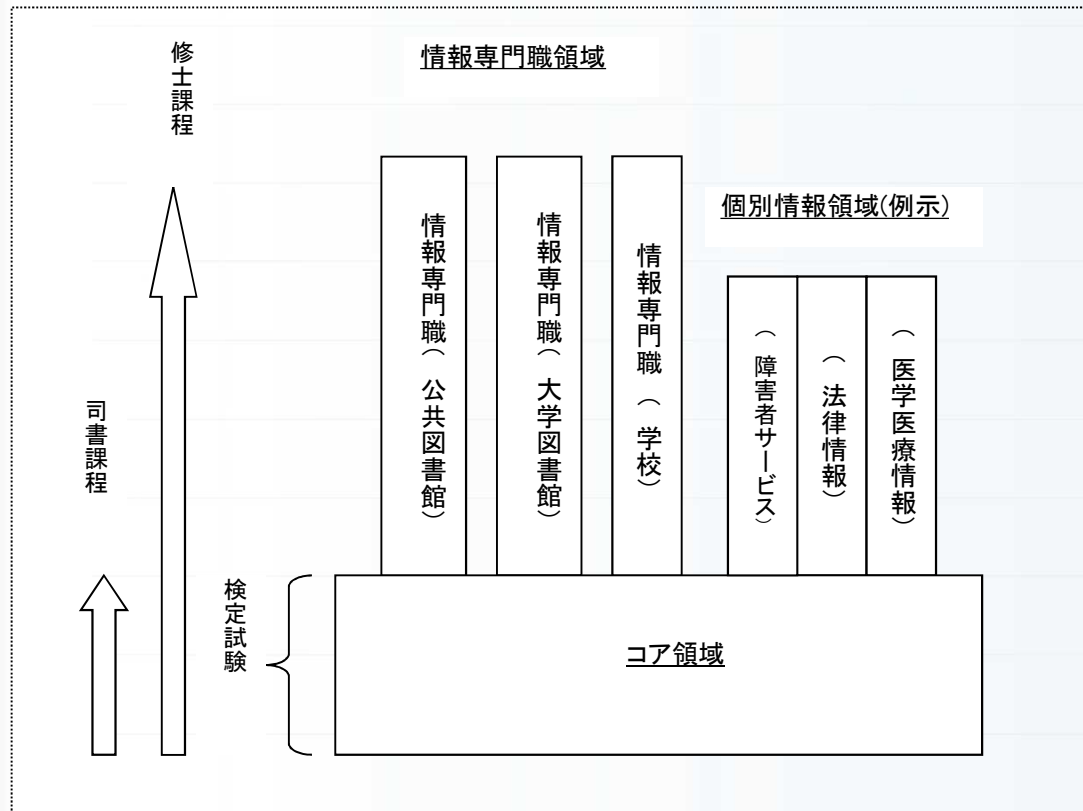
- 提言内容

- 図書館情報学教育改革案の提示
- 図書館情報学検定試験の実験的实施

学校司書の資格のあり方やその養成のあり方について

# LIPER提言に見る学校図書館職員のコンピテンシー

- 情報専門職(図書館員を含む)に共通のコア領域の設定
  - コア領域の7分野
- 館種別の専門職の位置づけ
  - 学校図書館ではなく学校とした背景





学校司書の資格のあり方やその養成のあり方について

## LIPER提言に基づく学校司書養成の要点

- 新たな制度の創設
- 学校図書館の専門職と学校における専門職の位置づけ
- 高等教育機関における養成

